

[様式14]

(対象事業：子どもを対象とした事業及びその開発にかかる事業)

事業名：篤姫子ども塾

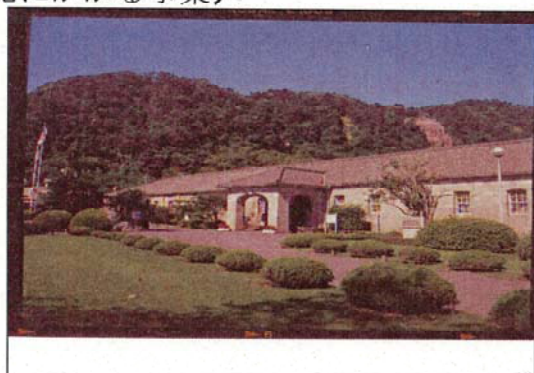
事業者名：尚古集成館

住所：鹿児島県鹿児島市吉野町9698-1

TEL：099-247-1511

FAX：099-248-4676

HPアドレス：<http://www.shuseikan.jp/>



### ①施設概要

尚古集成館は、大正12年(1923)に開館した博物館で、現在は島津家伝来の史料を中心に約1万点の史料を収蔵している。収蔵品には、歴代当主の書画、武具、薩摩切子・薩摩焼などの工芸品や機械類などがある。尚古集成館一帯は、幕末の薩摩藩主島津斉彬の時代には、「集成館」という近代的な工場群があり、反射炉・熔鋳炉などの鑄造施設の他、ガラス工場・鍛冶場・鑄物細工所などが立ちならんでいた。平成17年(2005)にリニューアルを行った尚古集成館本館では、海を視点にした薩摩の歴史や薩摩の伝統文化を紹介し、この地で行われた幕末の近代化事業である集成館事業をわかりやすく展示している。別館では、収蔵品をテーマ毎に展示する企画展示を年に六回実施している。

### ②事業の意図目的

地域の魅力を子どもたちと一緒に探訪し、新しい視点を発掘。その成果をふまえたガイドブックを作成し、多くの大人や子どもが地域の歴史に親しむことができるようにする。核となるテーマを平成20年(2008)放送の大河ドラマ「篤姫」の主人公である篤姫とすることで、子どもたちにも取り組みやすくなると考えられる。事業は、大人の知識を子どもに伝えるだけでなく、子どもの自由な視点を生かしながら大人も一緒になって調査を行うこととする。

### ③事業概要

1. 篤姫子ども塾の実施(平成19年9月～12月)  
子どもたちと一緒に、篤姫を切り口にしながら鹿児島を探訪する。
2. ガイドブック作成(平成20年1月～3月)  
子どもたちのレポート作成をうけ、編集・執筆を行う。
3. ガイドブック配布と活用を働きかける  
完成したガイドブックを小中学校などに配布し、同時にガイドブックの活用を働きかける。  
(ただし、ガイドブックを使用した講座などは次年度実施予定。)

### ④事業の製作物及び報告書等

作成した報告書等

冊子(篤姫子ども塾ガイドブック一歩いて調べてみよう!ー)

### ⑤参加者状況

参加者人数 延べ 36 人

内 訳 9月 11組22名、11月 2組4名、12月 5組10名

## (1) 事業の実施状況について

平成20年のNHK大河ドラマの主人公にもなっている篤姫(天璋院)は、薩摩(鹿児島)で生まれ、薩摩で育ち、19歳で江戸へ行き、22歳で13代将軍徳川家定の御台所となった女性である。幕末に倒幕の嵐が吹き荒れる中、実家である薩摩が婚家である徳川将軍家に向かってくるという不運に見舞われながらも、江戸城大奥にあり、強い意志で一貫した態度をとり、徳川家の存続に尽力した女性として知られている。そんな一本筋の通った女性の生き方が、今、注目を集めており、小中学生にとっても歴史上の人物である篤姫が身近な存在になりつつある。

このような状況をふまえ、「篤姫」を切り口に、子どもたちと一緒にふるさと鹿児島を再発見しようというのが、本事業のねらいである。尚古集成館では、2002年～2006年にかけて、トヨタ財団特定課題「近代化とくらしの再発見」助成を受け、地域の人と一緒に地元の歴史を掘り起こす事業を行ったが、子どもたちの柔軟な視点は地域の歴史に新しい光をともしきっかけになることを実証している。このノウハウを生かし、子どもたちの視点を盛り込んだガイドブックを作成することが、本事業の目的である。

具体的には、「篤姫子ども塾」を開催し、子どもたちと一緒に地域の魅力を探り、その成果をガイドブックにまとめる。できあがったガイドブックは、尚古集成館の子ども講座などで利用する他、県下の学校や関係機関にも無償で配布し、利用を促す。さらに、ガイドブック作成過程では、尚古集成館という博物館を核に、大学やNPO法人、学芸員などさまざまな大人が子どもたちと作業をともにすることで、博物館の新しい活動を模索することもできると考えた。

### 1. 篤姫子ども塾

篤姫子ども塾では、篤姫を通して鹿児島について調べてみようという意欲のある小学4年生から中学生の親子を募り、9月30日に子ども塾をスタートした。子ども塾は、ガイドブック作成のために調査を行うことが目的であるため、大勢の参加者を募るのではなく、人数を制限し、一緒に活動ができる参加者を募る必要があった。そこで、参加希望者には、あらかじめ篤姫について調べてみたいことについて作文を書いてもらい、応募者の中から参加者を選定することにした。地元新聞やホームページ上で公募したところ、素晴らしい作文が多数集まったが、当日は鹿児島市内の中学校の運動会などの行事と重なっていたため参加できない子どもたちもいたが、9月30日の開始日には、小学生の親子5組10人、中学生の親子1組2人で活動を開始した。その後、さらに参加者の中から希望者を募り、11月と12月には調査活動を行った。

以下、篤姫子ども塾の具体的な内容を記す。



### 1-1. 篤姫子ども塾①

開催日 平成19年9月30日(日) 午前10時～12時半  
開催場所 尚古集成館講座室  
参加者 小学4～6年生10組20名、中学生1組2名 合計22名  
外部講師 鹿児島大学総合研究博物館 館長 大木公彦教授  
NPO法人かごしま探検の会 東川美和氏  
内部講師 尚古集成館 学芸員 寺尾美保  
内容 篤姫が徳川家に輿入れする際に持参したといわれるものの中には、「冷泉石」で作った大きな硯があったとされている。硯の現物は残されていないが、関係史料を手がかりに、この硯がどのようなものであったのかを考えながら、鹿児島の歴史と自然について考える。篤姫を切り口に、鹿児島の歴史のみならず、自然や文化について考えていくことを目的とした全体講座であった。



## 1－2. 篤姫子ども塾② 一歩いて調べてみよう！－

開催日 平成19年11月11日（日）午前9時30分～午後4時  
参加者 小学生2組4名（当初予定は3組であったが、当日欠席があった）  
外部講師 指宿白水館学芸員 深港恭子氏  
内部講師 尚古集成館副館長 松尾千歳  
尚古集成館学芸員 寺尾美保  
内容 篤姫の生まれた鹿児島市内から篤姫ゆかりの地である指宿まで船で移動しながら、篤姫も見たであろう錦江湾（鹿児島湾）の風景を想像し、海が育んだ鹿児島の歴史や文化について考えてみる講座。到着後は、指宿にある篤姫関連の史跡を探索し、その後、ワークショップを行った。ワークショップでは、親子それぞれに今日の感想と篤姫について想像したことをまとめていく作業を行い、ガイドブックのための調査活動と位置づけた。





### 1-3. 篤姫子ども塾③ 一歩いて調べてみようー

開催日 平成19年12月9日(日)

参加者 小学生4組8名、中学生1組2名

外部講師 NPO法人かごしま探検の会 東川隆太郎氏

内部講師 尚古集成館学芸員 寺尾美保

尚古集成館学芸員 前村智子

内容 篤姫が生まれた鹿児島市内の上町・磯地区を探索し、当時の町の雰囲気を想像しながら、篤姫の幼少時代の様子を想像していく講座。同時に、昔の様子をとどめる町の雰囲気を観察していく。史跡めぐりの道中では、「篤姫はどのような気持ちで西田橋を渡ったと思いますか」など書いたワークシートを用意しておき、子どもたちが自然と考えをまとめていけるように促していった。ガイドブック作成のための調査活動という位置づけもあり、子どもたちの視点を丁寧に観察した。



## 2. ガイドブック作成

講座終了後に担当して頂いた講師や尚古集成館職員が講座の内容を復元した文章を作成し、ガイドブックに掲載した。この他、子ども塾の参加者にはレポートを提出してもらった。そのレポートの内容を抜粋しながら、ガイドブックをまとめていく作業を、1月から3月にかけて行った。

ガイドブックは、本書を手がかりに、さらに多くの大人や子どもが篤姫をキーワードに地域の再発見ができるようにすることが目的であるため、子どもたちの視点をたくさん盛り込むことにした。提出してもらった子どもたちのレポートは、作文の他、紙芝居や篤姫新聞、俳句など子どもの自由な発想によってまとめられたものであった。作文も単なる感想文にとどまらず、篤姫に代表されるような「薩摩おごじょ」とはどのような女性かといったテーマ性の高いものもあった。ガイドブックにはこれらの子どもの成果報告も十分におりまぜることができた。

## 3. ガイドブックの活用について

完成したガイドブックは、調査対象となった鹿児島市内および指宿市内の小中学校や図書館などの関係機関に寄贈した。また、来年度の尚古集成館主催の夏休み子ども講座（2008年7月、8月に一回ずつ実施予定）や教職員講座（8月に実施予定）で使用する他、子どものみならず大人にも利用を促すという意味で、活動に参加していただいたNPO法人かごしま探検の会や鹿児島大学総合研究博物館、薩摩伝承館（2008年2月にオープンした指宿白水館の美術館）などでも利用していただけるよう活用をお願いした。

### （2）地域との連携について

本事業では、ガイドブック作成のための活動にこそ地域連携の意味があると考えている。具体的には、篤姫ゆかりの地である鹿児島市北部、上町・磯地区に立地している尚古集成館が主体となり、篤姫の実家である今和泉島津家の領地であった今和泉（指宿市）近くにある薩摩伝承館（指宿白水館が経営する美術館）の学芸員である深港恭子氏、鹿児島の自然を子どもたちにも啓蒙する活動を継続しておられる鹿児島大学総合研究博物館館長の大木公彦教授、かごしまの魅力歩いて探そうという運動を広く市民に伝える活動をしておられるNPO法人かごしま探検の会の東川隆太郎氏・東川美和氏に講師陣としてご参加いただいた。これによって、尚古集成館という博物館を核に、歴史のみならず、地質、美術、地理、文化などさまざまなジャンルの専門領域にまたがる講座を展開することができた。また、これらの方々と連携しながら、子どもたちを誘導することによって、子どもたちの柔軟で生き生きとした発想を引き出すことができた。



### （３）成果物について

- ・題名：篤姫子ども塾ガイドブック 一歩いて調べてみよう！
- ・内容：篤姫を切り口にした史跡巡りの紹介と篤姫講座など
- ・規格：Ｂ５版２８頁 ５００冊
- ・配布先：鹿児島市内・指宿市内の小中学校、図書館など文化施設に発送した他、  
２００８年度実施予定の子ども講座などで使用。

篤姫子ども塾の成果物として完成させたガイドブックは、「篤姫探検」と「篤姫講座」の二部構成となっている。「篤姫探検」は、篤姫ゆかりの地である指宿市と鹿児島市を実際に歩きながら調べてみようというもの。指宿探検のテーマは「海からの視点で篤姫ゆかりの今和泉を見てみよう」であり、鹿児島探検のテーマは「歩いてみよう」である。どちらも、実際の講座で講師が子どもたちになげかけた言葉を掲載し、それに対する子どもたちの反応や、講座をきっかけに子どもたちが作成したレポートも掲載している。従来の情報だけをまとめたガイドブックとは異なり、篤姫を視点に指宿や鹿児島を見学する際に、どのような視点で子どもたちに語りかければよいかわかるようになっている。

大人が子どもと一緒にガイドブックを使いながら、地域を探索することもできるし、子ども自身もこのガイドブックをてがかりにゆかりの地を調べに行くことができるはずである。

「篤姫講座」では、実際の篤姫子ども塾で語られた講演内容を加筆訂正してまとめたもので、テーマは「篤姫の人生」、「篤姫と鹿児島の自然」、「海が育んだ鹿児島の歴史・文化」の三本である。

「篤姫講座」と「篤姫探検」の両方の内容を知ることによって、「篤姫」を切り口にして、どのような視点で鹿児島を再発見することができるかが理解できるようになっている。また、ガイドブックには、子どもたちのイラストや講座風景の写真などもふんだんに掲載した。



#### (4) 参加者の反応

参加者の反応で一番多かったのは、「以前より鹿児島を好きになった」とか、「篤姫を身近に感じられるようになった」というものであった。

子どもにとっては、教室の中で一方的に講師の話聞くスタイルの講座よりも、自分たちの足でさまざまな所に出かけていって調べていく活動が楽しかったらしく、「ただ見て回るだけでなく、途中でシティビュー（観光周遊バス）に乗ることができてものすごく楽しかった」（小4男子）といった感想もあった。また、「久しぶりにゆっくり歩いてみて、昔自分が住んでいた場所の変化に気づいた」（父親）、「こんな身近で篤姫のような人物が育ったというのが驚きだった」（母親）というような保護者の感想もあった。さらに、「昔は移動に船がよく使われていたとしたら、風が有る時などは大変だったのではないか」（小6男子）や、「篤姫の家から墓の場所が遠く感じた。昔の人はこんな距離を歩いていたんだと思った」（小4男子）、「車で見学した時には気づかなかったけれど、歩いてみると道がせまかった」（小5女子）というように、実際に歩いてみて始めてわかったことに感動したという意見も多かった。

さらには、「自分たちが立っている台地こそが自然だと思えた」（中1女子）とか、「海から見るといつも見ている風景が全く違って見えた」（小5女子）や、「石橋を造った昔の人はすごいと思った」（小4男子）など鹿児島の自然や技術に関心が向いた参加者もあり、「お墓の石についてもっと調べてみたい」（小5女子）とさらに新しいテーマを見つけた子どももいた。これらの子どもたちの作品の一部は、ガイドブックにも掲載している。

#### (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

芸術拠点形成事業を実施したことで、博物館を核にしながら、地域の魅力を再発見していく事業を行えることが再確認できた。また、地域のさまざまな分野の研究者らを講師に招き、熱心な参加者と一緒に活動を行った結果、従来の情報のみが掲載されているガイドブックとは異なり、子どもの生き生きとした感想や絵がふんだんに盛り込まれた楽しいガイドブックを作成することができた。次年度以降はさらにこのガイドブックを活用した子ども講座などを計画しているところである。



## 「篤姫」通して

鹿児島市吉野町の尚古

歴史、自然を見直す。

集成館は文化庁が助成する「篤姫子ども塾」の参加者を募集している。地域に住む子どもたちの視点で鹿児島を再発見するねらい。幕末に活躍した天璋院篤姫の生き方を通じて郷土の風土や

さらには二十組の中から

### 尚古集成館が 子ども塾生募集

## 郷土見直そう

三組を選び、鹿児島湾上の船から鹿児島を観察するクルージング（十一月十一日）と、五組限定による鹿児島城下史跡めぐり（十二月九日）も予定している。

受講生はリポート提出が必要で、同館は「子ども

### 小4—中学生20組

希望者は保護者の氏名、年齢、職業、住所、電話番号と、子どもの名前、学校、学年、年齢を記し、「自己紹介」をテーマにした

原稿用紙一枚程度の子どもの作文と、篤姫について調べたい題目を親子で一つずつ簡単に書いた紙を添え、封書で〒892

10871、鹿児島市吉野町九六九八ノ一、尚古集成館内「篤姫子ども塾」係まで。十四日必着。多数の場合抽選。同係099(247)1511。

# 世間遺産

THE 'SEKEN' HERITAGE

東川隆太郎

— 80 —

## 若宮神社前のアビーロード

(鹿児島市大竜町・池之上町・春日町)



### ジャケット写真そっくり

寒い季節になると衣替えをするように、愛聴する音楽も微妙に変化させている。コピーを着込みながら、大龍詠一の「カナリア諸島にて」や橋幸夫の「恋のメキシカンロック」、エディコ克蘭の「サマタイムブルース」も悪くはないが、少しずれを感じてしまふ。そのことをビートル

ズに置き換えるとうるさう。特に季節が意識された曲やアルバムがあるわけではなく、製作としてはラストアルバムにあたる「アビーロード」は冬のイメージを抱いている。このアルバムは名曲ぞろい、私はB面のメドレーが特に気に入る。「ミーン・ミスター・マスタート」から「ポリッシュ・パン」へと連続するあたりで、思わず聴く耳に力が入ってしまう。

またこのアルバムは、なんといってもジャケットが有名である。アビーロードというロンドンの通りの横断歩道を渡る四人の姿は、ビートルズを聴かない人でも知っているはずだ。おそらく、多くの人が似たような場所を探して通りを観察しているのではない

か。私も長年アビーロードを求めてきたひとりだったが、最近、尚古集成館の方々と「篇



幼少期の篇姫も散策したかもしれない道

姫子とも塾」という講座を開催している際に、偶然にもそれらしい場所を見つけてしまったのである。篇姫は今話題の人物だが、彼女が誕生したとされる今和泉島津家本邸跡の裏通りが、アビーロードもどきと感じた通りだ。上町五社と呼ばれる、江戸時代には特に崇拝されていた神社のひとつである若宮神社に面する通りでもある。それだけに、もしかすると幼少期の篇姫も散策したかもしれない通り、ともいえるかもしれない。まあ、篇姫が散策の際に、アビーロードを意識していた、ということとはまずありえないが、大きな屋敷や神社、そしてお寺に面した落ち着きのある通りであったことは想像できるだろう。

写真にリアリティーを出したくて、受講していた子どもたちに協力をいただいたが、なかなかさまになったような気がする。来年から始まる「篇姫」にも期待を込めて、アルバムの曲のようにかっこよく認定した。イエイ。

(NPO法人がこしま探検の会代表理事)